

地域連携だより

第20号

2012.5



症例報告

004

整形外科部長 小川 博之

「長期化した歩行障害が

人工膝関節手術により完治した症例」

【症例】60歳代 女性 主訴：両膝関節痛による歩行障害

既往歴：高血圧、高脂血症で近医内科でアムロジン、メバロチンを内服加療中
 現病歴：10年前から両膝関節痛を自覚し正座が出来なくなり可動域制限も伴っていた。
 職業である太極拳の指導にも不自由をきたしていた。本年4月、歩行中に膝を振じつ
 てから疼痛が増悪し歩行障害が出現した。枚方市の整形外科で関節注射・足底板装着
 ・温熱治療を行っていたが、効果は持続せず当院を紹介受診された。

局所所見： 関節可動域(自動) 屈曲/伸展 右 95° / -30° 左 85° / -40°

臥 位： 大腿骨脛骨角 右 190° 左 195° と内反著明

X 線 像： 右・進行期 左・末期 変形性関節症像

歩行能力： 内外側動揺性を伴い、疼痛で500mに制限

【経過】外来で疾患教育と筋力訓練を指導し、手術前から屈曲拘縮を改善目的に関節
 可動域改善リハビリテーションを行った。関節可動域は、右 105/ -5° 左 90/ -10°
 と軽快したが歩行障害は改善せず人工関節手術を計画した。仕事の日程を調整し症状
 の強い左膝の手術を先に予定した。

H23年1月 左膝人工関節置換術 施行

前日の午後に入院。手術当日麻酔覚醒後から下肢運動訓練を開始、翌日から起立・
 歩行訓練と進めていき、術後3週目に独歩で退院。

術後7週で復職され、2ヵ月で可動域は 125° / 0° と安定。

左膝機能が改善すると右膝の内反変形による歩行障害が顕著になり、

H23年7月 右膝人工関節置換術 施行

前回と同様の経過により術後3週目に独歩で退院。術後8週で復職され、2ヵ月で
 可動域は 130° / 0° と改善。その後太極拳の指導で全国への出張が可能になった。

術後6ヵ月経過以降は、1年ごとの定期フォローアップを予定している。

【結語】膝関節の変形が強く、疼痛・動揺性のため歩行障害をきたしている方には、
 人工関節手術を考慮しています。60歳前後から80歳後半までの方が対象で、クリニ
 カルパスを使用し入院加療は約3週間で、退院後に通院リハビリを行います。

長期化する場合は、田辺記念病院に転院して継続リハビリを行い、その後中央病院
 の整形外科外来を受診していただきます。

静脈血栓予防のために、駆血帯(出血予防バンド)はインプラント固定者以外は使用して
 いません。自己血貯血も、希望の場合を除いて使用しなくても手術が可能です。



【TOPICS 1】

「地域連携だより」20号
 の「症例報告」は、
 第4弾 整形外科部長の
 小川 博之です。



現在、整形外科5名(専門医4名)
 で外来診療と入院診療を行っ
 ております。

当院の整形外科領域は骨折等
 の外傷、変形性関節症、スポー
 ツ障害、神経筋腱障害、関節リ
 ウマチ、骨粗鬆症、椎体骨折な
 ど幅広く、脊椎疾患は脊椎セ
 ンターで加療を行っています。
 早期回復を目標に運動器リハビ
 リテーションに力を入れており
 、理学療法士、作業療法士、言
 語療法士とともに入院を中心に
 運動療法を行っています。

急性期の役割上、物理療法に
 ついては行わず、他院に紹介
 させて頂いています。

当院が急性期治療を行い、回
 復期は田辺記念病院、維持期は
 地域の診療所の先生方が加療し
 ていただくことで患者様が住み
 慣れた地域で医療を受けられる
 事を目指しています。

左記のような症状の方がおられ
 ましたら、患者様のADL向上の
 ために受診をお勧めください。
 地域連携室でご予約可能です。

小川外来：月曜日(予約)
 木曜日(一般外来)

静脈血栓防止 DVT チームの取り組み

～臨床検査科～

■当検査科は臨床検査に留まらずチーム医療の一員として様々な業務を行っています。平成23年にはDVT（深部静脈血栓症）対策委員会を立ち上げ、メンバーとしてDVT予防に努めています。

また、術前スクリーニングのクリニカルパスとして心臓エコー・下肢静脈エコーを実施しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
H23年度	70	87	82	74	69	83	88	84	82	82	67	76	944
H22年度	73	62	89	78	67	79	70	64	70	78	65	63	858
H21年度	71	51	77	66	67	47	63	78	77	69	70	77	813

※骨折や外傷等の緊急手術の時でも、迅速な検査が可能です。



スタッフ紹介

脈管疾患領域の病態と診療に関する専門知識と技術を有する専門家として血管診療技師認定資格を3名が取得しています。また、超音波検査士資格も各領域にて取得し、臨床に役立てられるよう日々精進しています。

超音波関連資格

超音波検査士：心臓4名、腹部4名、体表1名、健診1名、泌尿器1名

血管診療技師 CVT：3名

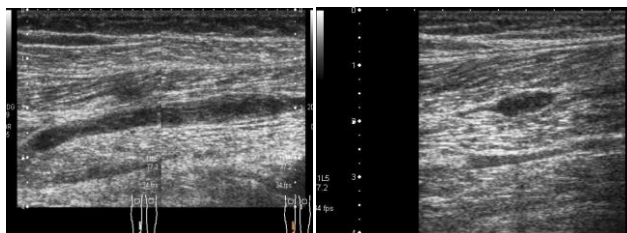
使用機器：日立 Avius 東芝 Aplio 東芝 Xario Nemio Famio

DVT 対策委員会

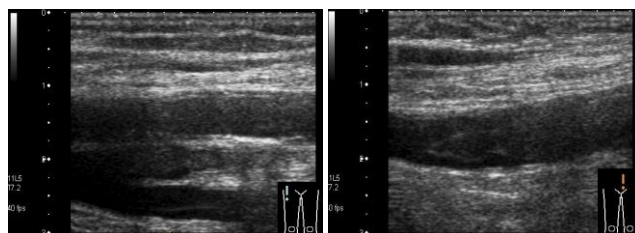
DVT 対策委員会は医師、病棟看護師、リハビリテーション部、臨床薬剤部、医事部と臨床検査科のメンバーで活動しています。DVT 予防の検査や処置項目のクリニカルパス導入を検討中です。また、DVT・下肢浮腫予防目的で適切な弾性ストッキング装着ができるようコンダクター資格取得も目指しています。

症例紹介

術前下肢エコーで血栓を認め、IVC フィルター留置によりリスク回避して手術となった症例です



①65歳女性：右大腿骨骨頭内 骨壊死にて整形外科入院。
両側の膝下静脈から膝窩にかけて大量の血栓を認め、IVC フィルターを留置となった。



②64歳女性：外傷性くも膜下出血にて脳神経外科入院。
両側総大腿静脈に多量の新鮮で浮遊状態の血栓を認め、IVC フィルターを緊急に留置した。

検査予約について

下肢の浮腫や四肢の痛み、皮膚変色などDVTを疑う症例、下肢静脈瘤症例など四肢血管疾患を疑われる場合は、いつでもご依頼ください。当日の緊急依頼にも対応しております。

田辺中央病院 地域医療連携室

直通 TEL/FAX 0774-64-0444

診療時間中は地域連携室にご連絡を夜間休日は当直事務員が電話対応させていただきます。

患者様をご来院される際は、できるだけ詳しい情報提供をお送りくださいますようお願いいたします。緊急時は、FAXでも結構でございます。

地域連携室から紹介患者様の「ご来院報告」をFAXで、お送りしています。

担当医師からは治療方針等が、確定次第、情報FAX若しくは「ご報告書」を郵送して、ご紹介患者様の状況をお伝えしております。

時間外のご連絡先

TEL 0774-63-1111

FAX 0774-63-2363

急性期治療を終わられましたら、再び、かかりつけ医の先生方へはもちろん、地域の先生方に、「逆紹介」を積極的に行わせていただいております。

発行：田辺中央病院 地域医療連携室

住所：〒610-0334 京都府京田辺市田辺中央 6-1-6

(直通) TEL・FAX 0774-64-0444

(代表) TEL0774-63-1111・FAX0774-63-2363

Eメール：chiren@sekiteitsukai.or.jp